

# 戦 評

大会名 平成28年度第13回東北クラブバレーボール選手権大会  
『みちのくカップ』岩手県予選会

期日：平成28年9月3日  
会場：オガールアリーナ

6人制男子 決勝戦

藤沢クラブ 2 { 25 — 14  
25 — 21 } 0 盛岡クラブ

試合時間 0 時間 39 分

主 審 新 沼 美 穂

副 審 戸 羽 太 一

## 戦 評

共に初優勝を狙う決勝戦。第1セットは両チームともレフトを中心とした強打で点を  
取り合う展開でゲームは進む。

中盤、藤沢クラブは強烈なサーブで相手にレセプションを崩し、小野、伊藤の強打で点差  
を広げはじめる。盛岡クラブもセッター吉田を中心としたコンビバレーで活路を見い  
出そうとするが藤沢クラブの勢いを止められず、藤沢クラブが第1セットを先取する。

第2セットも藤沢クラブは前のセットの勢いを保ち、序盤からリードする展開で進む。

流れを変えたい盛岡クラブは葛西のライトからの強打を中心に反撃を試み、僅差まで

詰め寄るものの捉えきれず、藤沢クラブがこのセットも奪い念願の初優勝を飾り、

10月に五所川原市で開催される『みちのくカップ』の出場を勝ち取った。

この試合の勢いそのまま、本大会での活躍を期待したい。

戦評者 大 山 幸 司

岩手県クラブバレーボール連盟

# 戦 評

大会名 平成28年度第13回東北クラブバレーボール選手権大会  
『みちのくカップ』岩手県予選会

期日：平成28年9月3日  
会場：オガールアリーナ

6人制女子 決勝戦

盛岡大学クラブ 2 { 16 — 25  
25 — 21  
25 — 17 } 1 リトルウィッチーズ

試合時間 1 時間 17 分

主 審 戸 羽 太 一

副 審 千 葉 啓 一

## 戦 評

昨年に引き続いての対戦となった決勝戦。

第1セット、リトルウィッチーズは相手の乱れに乗じて古川を中心とした攻撃が冴え先取する。

第2セットに入りまとまりのできた盛岡大学クラブは、井戸畑、戸羽智美の攻撃が決まり、

序盤7点差をつける。一方のリトルウィッチーズは、古川、松尾の活躍で追い付くものの、

終盤盛岡大学クラブは井戸端にボールを集め押し切ってセットを奪い返す。

最終セット、序盤から一進一退の攻防を繰り広げる中、盛岡大学クラブは井戸端、三浦の

強烈なスパイクが決まりリードを広げる。リトルウィッチーズも古川、松尾にボールを

集め反撃するものの、盛岡大学クラブは勢いに乗ってこのセットも奪い2連覇を決めた。

戦評者 佐々木 一晃

岩手県クラブバレーボール連盟

# 戦 評

大会名 平成28年度第13回東北クラブバレーボール選手権大会  
『みちのくカップ』岩手県予選会

期日：平成28年9月4日  
会場：オガールアリーナ

## 9人制男子 決勝戦

黒 修 会 1 { 21 — 19 } 2 北 上  
19 — 21  
23 — 25

試合時間 1 時間 27 分

主 審 大 山 幸 司

副 審 千 葉 啓 一

## 戦 評

7月に行われた全国社会人大会予選会決勝の再現となったこの試合、3連覇を目指す黒修会と本大会2度の優勝経験を誇るものの、ここ2年間黒修会に屈し、雪辱に燃える北上との決勝戦。同地区であり、お互い手の内を知りつくしており、第1セット、第2セットとも白熱した攻防を展開、各セット後半まで一進一退の中、僅差でお互いが1セットずつ奪い合う。意地と勝負を賭けた第3セット、中盤まで競り合いが続いたが、黒修会のわずかな守りの乱れに乘じ北上が18-15とリード。追い詰められた黒修会はここで菊池翠がコートに入り、自らが威力のあるサーブで連続得点を挙げるなど一気に4連続得点を奪い逆転。このまま押し切るかに思えたが、北上はここから必死の守りで粘り強くボールを繋ぎ反撃の機会を狙う。デュースに入り黒修会は2度のマッチポイントまで迫るが、北上はこれも凌ぎ切り最後は22-23からの3連続得点で逆転し、雪辱を果たすとともに5年ぶり3回目の優勝を勝ち取った。県内トップチーム同士のゲームであり、守りやネット際の硬軟織り交ぜた攻防は『これぞ9人制バレーの醍醐味』という見ごたえのある好ゲームであった。

戦評者 山 影 敦

岩手県クラブバレーボール連盟

# 戦 評

大会名 平成28年度第13回東北クラブバレーボール選手権大会  
『みちのくカップ』岩手県予選会

期日：平成28年9月3日  
会場：オガールアリーナ

9人制女子 決勝戦

北上ホップス 2 { 21 — 12  
21 — 23  
21 — 19 } 1 いわいクラブ

試合時間 1 時間 25 分

主 審 千葉 啓 一

副 審 佐々木 一 晃

## 戦 評

県内9人制女子チームの王者として君臨する北上ホップスと、昨年のリベンジに燃える  
いわいクラブの対戦となった決勝戦。

1セット序盤、いわいクラブはレフト千葉やセンター木村軸にゲームを組立てるも、北上  
ホップスは高いブロックとバック陣が瀬川を中心に安定した守りから柳原の強弱をつけた  
攻撃で得点を重ね、流れを渡すことなくこのセットを先取。

2セット目、一気に決めたい北上ホップスであったが、攻守のリズムが安定したいわい  
クラブは多彩な攻撃から終盤まで応戦し、このセットを奪い返す。

最終セット、いわいクラブ菊地、北上ホップス米澤と互いの軸になる選手にボールを集め  
終盤まで一進一退の攻防を展開するが、総合力に勝る北上ホップスが必死に粘るいわい  
クラブの追撃をかわして勝利を勝ち取った。

戦評者 山 影 敦

岩手県クラブバレーボール連盟